

(3) 評価項目と評価指標

川北町立中島小学校

			評価項目	具体的取組	評価指標	達成度判断基準	備考	
1	組織的な学校運営	1-(1)	1	【組織的・協働的な学校運営】 学力向上ロードマップに基づいてPDCAサイクルによる共通実践・共通行動を行い、組織的・協働的な実践を行う。	分掌部会と主任会議と職員会議を密接に連携させ、迅速に対応できる組織的・協働的な取組と学校評価を生かした体制づくりを行う。定期的な検証・改善を行うために、主任会議等で、学力向上ロードマップや学校評価の結果をもとに、改善策を共有し、迅速に対応していく。	【努力指標】 学力向上ロードマップや学校評価に基づき、全職員が学校経営方針の具現化に向け、組織的・協働的に学校運営に携わり、取組の検証・改善を進め、迅速に対応している。	学力向上ロードマップや学校評価に基づいて、組織的・協働的に分掌業務に取り組み取組の検証・改善を進め、迅速に対応している取組の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	主担当:教務主任(芦原)、各主任 評価時期:7月、12月 評価方法:教職員アンケート
		1-(2)	2	【働きやすい職員室づくり】 目的と効果を考えた業務の精選、DXによる業務の効率化を図り、働きやすい職員室づくりを行う。	火曜日、金曜日の放課後、また低中高の打ち合わせ時間等を有効に使い、報告・連絡・相談をきめ細かく行い、あたたかく協働的な職員室づくりを行う。	【成果指標】 空き時間や放課後の時間を有効活用し見通しのある予定を立案し共通理解を図りながら業務を行っている。	時間外勤務時間が学期ごとの平均45時間未満だった職員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	主担当:教頭 評価時期:7月、12月 評価方法:出勤記録
2	確かな学力の育成	2-(1)	3	【自立した学習者の育成】 学校研究を中心として授業で子ども力を高める教師の力量の向上を図り、自立した学習者の育成を進める。	見方・考え方を働かせる重点単元づくりと授業実践を行う。また、授業交流・分析検証・共有を行う場を設け、教師の授業力の質を高める。	【成果指標】 教師の単元づくりと授業改善により、児童の学力を向上させている。	学期末のテストで思・判・表80点以上の達した児童の割合が A: 70%以上 B: 60%以上 C: 50%以上 D: 40%以上	主担当:研究主任(西) 評価時期:7月、12月 評価方法::算数科学期末テスト
		2-(2)	4	【言語能力の向上】 学習基盤としての言語能力(読書活動)を高める取組を行う。	日常的に本に親しむために、週に一度図書室を利用する。地域の方と連携し(読み聞かせ等)、図書室に行きたくなる環境作りを工夫をする。	【成果指標】 児童が継続して読書を行っている。	ブックウォークで自分のめあてを達成した児童の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	主担当:図書担当(末永)各担任 評価時期:6月、11月 評価方法:児童のブックウォークの記録
		2-(3)	5	【学びをつなげる家庭学習】 個に応じた家庭学習に取り組む、家庭学習の自己管理(高学年)の実践を行う。	授業での学びをつなげられるように家庭学習の内容や出し方を工夫する。 学習内容の復習する(低)めあてを持ち、振り返る(中)計画を立てて取り組む(高)	【努力指標】 児童一人一人が、学ぶ目的を意識しながら、低・中・高学年の目標に向かって家庭学習に取り組んでいる。	低・中・高学年の目標に向かって家庭学習に取り組んでいる児童の割合(A+B) A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	主担当:教務主任(芦原)各担任 評価時期:5月、11月、2月 評価方法:レベルアップカード
3	豊かな心の育成	3-(1)	6	【4つの視点を生かした授業づくり】 一人一人居場所があり、きずな深まる学級、学校づくりのため、生徒指導の4つの視点を意識した授業づくりを実践する。	「めざせ！きずな学級」に生徒指導の4つの視点を取り入れ、教師が意図的に授業の中で生かし、一人一人がかがやく場(自分を出し切る場)を設定する。	【成果指標】 月1回「めざせ！きずな学級」の取組を実施し、安心、安全な学級作りを行っている。	「めざせ！きずな学級」の4つの視点を意識して取り組んだ学級の割合(A+B)が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	主担当:生徒指導部(蒲田・吉村) 評価時期:各月 評価方法:「めざせ！きずな学級」取組結果及び教職員アンケート
		3-(2)	7	【主体性の児童会活動】 目標を明確に示し、主体性・協働性のある児童会活動の実施により、自己肯定感を高める。	かがやき児童会の目標に向かって、各委員会活動や学級活動に取り組ませ、よい姿を積極的に認める。	【成果指標】 目標に向かって取り組み、自己肯定感を高めている。	きずな児童会の目指す姿の実現に向けて、自分の役割を自覚して委員会活動や学級活動に取り組んだと答えた児童の割合(A+B)、活動後参加した児童、アンケートで肯定的な回答の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	主担当:児童会担当(吉村、西) 評価時期:7月、12月 評価方法:活動後アンケート 教職員アンケート
		3-(3)	8	【対話で深まる道徳授業づくり】 深い児童理解、実態把握による授業づくりの実践を行う。	児童理解、児童の実態把握のために事前アンケートや児童の振り返りを生かして、発問の工夫や授業展開の工夫を行う。	【成果指標】 児童が自分事として考え、本音で語り、道徳的価値について学べたと感じる授業を実践している。	道徳授業で課題を自分事として考えたり、本音で語ったりして、道徳的価値について学べたと感じている児童の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	主担当:道徳担当(末永)、各担任 評価時期:7月、12月 評価方法:教職員アンケート 児童アンケート
4	健やかな体の育成	4-(1)	9	【自己管理能力の育成】 自己管理能力を高めるため、望ましい生活習慣等について児童、保護者と連携して取り組む。	レベルアップ週間に合わせ、「自分の生活習慣をふりかえり、自己の課題に気づく」「具体的な行動目標設定」に向けた保健指導・家庭への働きかけを行う。	【成果指標】 自分の生活に合ったよりよい生活習慣に向けた行動を考え実践している。	レベルアップ週間の結果、自分で決めためあてを達成できた児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	主担当:養護教諭(西夢) 評価時期:5月・11月・2月 評価方法:レベルアップカード
		4-(2)	10	【自己の体力の課題改善】 運動の課題に対し、体力アップ1校1プラン等で児童が楽しく、継続して参加できる取組を実践する。	体育の授業で握力向上トレーニングに取り組む。児童会体育委員会主催で、運動場や体育館で運動する企画を計画・実施する。	【成果指標】 児童が楽しみながら、体力づくりの運動を継続して行っている。	記録が4月より(7月より)伸びたクラスの割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	主担当:体育担当(川尻) 評価時期:7月、12月 評価方法:握力の記録
5	家庭・地域との連携	5-(1)	11	【家庭・地域との情報共有による信頼関係の構築】 家庭や地域との情報共有を定期的に行い、真摯に向かい合い信頼関係を築く。	保護者や地域との信頼関係を築くための手立てとして、お便り、ホームページ、電話連絡等を実施する。	【満足度指標】 担任(学校)と家庭や地域の信頼関係を築くため、連絡帳、電話連絡、学年だより等による情報交換・情報発信を行っている。	「学校は、お便り、ホームページ、電話連絡などで、学校の様子を知らせている」と答えた保護者の割合(A+B)が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	主担当:教頭及び各担任 評価時期:7月・12月 評価方法:保護者アンケート 教職員アンケート
		5-(2)	12	【探究活動の充実】 地域の人・もの・場所を生かした総合的な学習における「探究」活動により、地域連携を充実させる。	探究課題を明確にし、総合的な学習の時間に人・もの・場所の活用を行いながら探究活動を進める。	【努力指標】 児童一人一人が探究課題に向かい、探究活動を行っている。	地域の課題について、地域の人・もの・場所と関わりながら、探求活動に取り組んでいる児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	主担当:教頭及び各担任 評価時期:7月・12月 評価方法:児童アンケート